

第 8 回日韓 NCC 協議会 共同声明

平和を実現する人々は幸いである。(マタイによる福音書 5 章 9 節)

1. わたしたちが立つところ～9.11 以降の世界と平和の危機

韓国基督教教会協議会 (NCK) と日本キリスト教協議会 (NCCJ) は、2004 年 12 月 6 日～8 日、東京 (在日韓国 YMCA) において、「平和の文化を共に創ろう～暴力の時代をどう生きるか」という主題で、第 8 回日韓 (韓日) NCC 協議会を開催しました。

2000 年、ソウルで開催された第 7 回協議会で、私達は以下のことを約束しました。

「私たちは、この協議会を通じて、キリストにある姉妹兄弟として、周辺国の利害争いの中で被害を受ける朝鮮半島の緊張緩和と東アジアの平和実現のための努力を行い、新たな世紀に平和のうちに共生するための平和教育と、分断の傷をいやすプログラムの実施のために共に努力する。また、私たちはアジアの民衆の民主化への切なる願いと経済正義実現のための闘いに連帯・協力し、共に生きるアジア共同体の理想の未来を拓く責任を負う。」

第 7 回日韓 NCC 協議会共同声明

しかし、2001 年の 9.11 を契機に、21 世紀は新たな「戦争の世紀」への道に迷い込んでしまいました。「テロとの戦い」を標榜する米国は、世界世論を無視し、国連の枠組みを翻弄し、アフガニスタン、イラクへの一方的な戦争を強行し、平和を破壊し、暴力の連鎖を引き起こす最大の要因となっています。

米国の強硬な軍事的経済的世界戦略は一国で可能なことではなく、日本や韓国も重要な一環として組み込まれています。日韓両政府は、米国の戦争に対して、米軍基地配備、莫大な軍事費負担など、協力を一段と強化しています。また、イラク派兵により、イラクでの民間人犠牲者を出すに至ってしまいました。

同時に、日本においては、改憲にむけての動きが加速し、多様化する市民社会への警察による監視と権利侵害が横行し、教育の右傾化と共に民主主義の著しい形骸化が深刻となっています。被差別少数者の権利がより周縁化され、女性差別が助長されています。また対テロ対策という名目で、外国人に対する敵意と偏見 (ゼノフォビア) の煽動が行われています。

2. キリスト教内外の原理主義とその問題

米国ブッシュ大統領の再選は、キリスト教教会にとってもさらなる課題であります。それは、ブッシュ政権の「外交」が、力による世界支配戦略であり、その重要な基盤の一つがキリスト教原理主義であることは、よく知られている事実だからです。また、そのいわゆる「道徳主義」は、人権擁護に基づくものではなく、むしろ偏狭であり、人権を侵害する政策につながっているともいえます。これが、ネオ・コンサバティブ(ネオコン)と言われる新保守主義者勢力の一翼を担って、軍事支配政策の支えとなっています。

韓国においても、権威主義的で現実安住的な原理主義に依拠する一部の教会があります。かれらは朝鮮半島の平和と統一の躓きとなり、民主化と社会全般的な改革を熱望する国民的願いをさまたげています。また、米国の覇権主義をやみくもに支持することをキリストの御心とし、現実

を歪曲する傾向があります。

他方、日本のネオ・コンサバティブ勢力は、天皇制支配の復活を目ざし、日の丸・君が代強制や教育基本法改悪による画一的な「愛国心」教育により、人々のこころの支配をもくろみ、その影響力を強めています。小泉首相が靖国神社の公式参拝を強行し続けていることは、植民地支配の被害者や戦争犠牲者の痛みを理解しない自己の論理の傲慢な押しつけに他ならず、日本の右傾化を象徴しています。

日本のキリスト教では、キリスト者平和ネットなどを通してこれに抵抗する基盤作りの努力がなされてきました。しかし、大勢は右傾化の流れに迎合するように、信仰をもっぱら個人の内面的救いと正統的教理の信奉に集中させ、教会の拡大を主要関心としています。そして、力による支配がもたらす人びとの苦しみや痛みに関心となり、教会に安住しようとする傾向が強くなっています。

このような原理主義や新保守主義の流れに抗して、人びとの霊的渴望に正しく答え、抑圧からの解放の課題を担うために、真の教会の回復が求められています。そのために教会の在り方と神学の変革が必要です。

3．青年の現実と教会の課題

私たちは、日韓の青年が激しい社会変化の中での自己形成の過程で押しつぶされそうになっていることに心を痛めます。政治経済のグローバル化や労働環境、コミュニケーション環境の急激な変化は、青年たちが明日の社会と自分を思い描くことを困難にしています。また、人間関係が育まれる空間として、地域社会は失われ、学校は画一化された競争の場となり、家庭はしばしば安定した自己受容を形成する役割を見失っています。

そのような状況にあって、特に日本において青年が、新しい国家主義・歴史修正主義運動や宗教的原理主義に彼、彼女たちの不満、不安、苦しみのはけ口を見いださざるをえなくさせられていることを、私たちは憂慮しています。教会は、青年が抱えている問題に耳を傾けているだろうか、青年が祈りと希望を表現する場になっているだろうか、私たちは自問せざるを得ません。

他方、エキュメニカル運動の中で平和を作り出す者となることを目標として活動してきたアジアのキリスト者青年が、その過程で鋭い感性を示してきました。そこには教会の学ぶべきものが少なくありません。

4．暴力の構造を克服するために

米国が気に入らない国を「悪の枢軸」呼ばわりし、「テロとの戦い」を仕掛け続けるとすれば、米国との密接な関係をもつ日韓の両 NCC の課題と責任はさらに重大です。

「剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26 章 52 節) という御言葉を覚え、問題解決の手段として暴力を決して選ばないと決断し、「剣を鋤に」変えるために、両国がこれまでもまして、連携協力することが、求められています。

「暴力」についての対話を深める中で、私たちは、他者の人間性を否定する植民地主義の暴力の歴史を記憶していくこと、誰の視点で歴史を見るかに注意し、歴史をねつ造しようとする力に抗うことの大切さを認識しました。また、私たちは、「家父長的思考と構造」は、国家と教会、家庭のすべての場で力の弱い存在を抑圧する権力体系であり、「暴力」の文化であることに気づきました。戦争ではなく平和を求め、和解と協働を目指し、教会と社会の真の民主化のため、私

私たちは、お互いの日常的な関係を見直し、その質を変えていこうと決意しました。そして、北朝鮮などの米国とその同盟国が敵視する国に対して、国家が人々の恐怖心を利用すること、また対決し、孤立させる政策手段として制裁を利用すること、防衛の名において先制攻撃を行うことに反対していくことを確認しました。

暴力ではなく正義に裏打ちされた平和を、差別ではなく違いの尊重に裏打ちされた平等を、私たちが多様な他者と共に住む社会に実現すること、共感することから始めること、それが必ずアジアの、そして世界の平和構築に貢献すると、私たちは確信します。私たちは、国家政策やスローガンのためであろうと、誰一人、殺されることを容認しません。「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなた方の天の父の御心ではない。」(マタイ 18章 14節)

5. 今後に向けて

朝鮮半島の緊張緩和と東アジアの平和実現のために、私たちは、米国の諸教会の友人たちに対して、戦争の中止とイラクからの撤退、暴力を手段にしないことを、日韓両国 NCC から、心からの悲しみと友情をもって呼びかけます。

平和のプロセスに貢献するために、日韓 NCC 協議会、「東山荘会議」など、これまでに積み上げられてきたエキューメンカルな協力を今後も深めていきます。

和解と共生のために、外登法問題に取り組む日韓キリスト者協議会、日韓 URM、日韓女性会議、日韓「障害者」合同交流セミナー、日韓青年会議など、各部のプログラムを支援していきます。また、2005 年、敗戦 60 周年・光復 60 周年を覚え、日韓キリスト者の指導者会議をソウルで開くため、協力します。

平和のうちに共生するための平和教育の一環として、2005 年 8 月、ヒロシマで行われる日韓こども平和会議を祝福し、その実現に協力します。各部の連携プログラムを支援していきます。

分断の傷をいやすプログラムの実施のために、朝鮮民主主義人民共和国への人道的食料支援や、和解のためのプログラムに連携努力し続けます。南北統一のためのゆるやかなプロセスと、真の日朝国交回復への連携努力を続けます。

痛みの歴史を記憶するために、強制軍隊「慰安婦」の歴史を抹消しようとする動きに抗して、私たちは「ナムムの家」歴史記念館や高麗博物館に深く敬意を表し、歴史への責任を果たす和解への具体的なプログラムのひとつとして、「戦争と女性の平和記念館」の、日本国内での設立運動に協力します。

多文化共生社会をつくるために、日韓両 NCC は協力して、移住労働者とその家族の基本的人権をまもります。

私たちは、ここでの協議をふまえ、別紙の項目につき、具体的なアクションプランを立てました。21 世紀と、その先の未来の子どもたちに対して、私たちの約束が、この時代の責任を負うものでありますように。これらすべての願いと祈りが、歴史の主、イエス・キリストによって、祝福されますように。アーメン。

2004 年 12 月 8 日

韓国基督教教会協議会
会長
総幹事

日本キリスト教協議会
議長 鈴木伶子
総幹事 山本俊正